

クラス番号	631	担当教員名	井澤 幸
テーマ	地域で安心して住み続けるための福祉住環境について		
著書・論文	【論文】「出産の場としての助産所における子育て支援の特徴と課題」『福祉社会開発研究』第12号, 2017 / 「有床助産所における子育て支援の活動実態と支援室に関する研究」日本建築学会大会, 2017 / 「加齢により変化する記憶の都市像」名古屋工業大学修士論文, 2000		
研究課題等	【研究課題】高齢者・障害者の住居・施設 / 高齢者の住宅改修支援 / ユニバーサルデザインのまちづくり / 子ども住環境		

ゼミナール概要

キーワード：福祉住環境、居住福祉、高齢者向け住宅、住宅改修、子どもの住環境、バリアフリー、ユニバーサルデザイン

目的、内容、方法等：

高齢者・子どもや障害者をはじめだれもが地域で安心して住み続けるためには、その生活基盤となる住環境が重要です。本ゼミでは、高齢者や子ども（子育て中の家族）、障害者をはじめすべての人にとって生活を支える福祉住環境（住まい・施設・まちの環境）について、現状の課題と今後のあり方について研究します。バリアフリーやユニバーサルデザインといったハード的な環境だけでなく、人々の生活に関連した家族環境・地域のコミュニティ環境・ケアサービス環境などソフト的な環境もテーマに据え、両者を横断した学習を進めます。対象とする福祉住環境の要素としては、住居・施設といった生活の拠点に加え、道路・交通機関、公園、公共施設、生活利便施設など地域での生活にかかわる幅広い要素を対象として考えます。また、生活の拠点としては、住居だけでなく、グループホーム、老人ホーム等の入所施設、高齢者や子どもの居場所なども研究対象に含めます。

授業計画：

ゼミナールの進め方としては、地域における住居とまちの環境に関する現状の問題や課題について、文献・統計資料・既存研究論文等を調べ、整理することにより、基礎的な認識を深めます。

さらに、いくつかのグループに分かれて、住居や施設・まちの環境に関するテーマを設定し、フィールドスタディにもとづき、現状の課題や改善方策についてレポートにまとめます。各グループがまとめたレポート内容に関する報告をもとにゼミで討論を行い、理解と認識を深めます。

グループ研究においては、フィールドワークを重視しています。高齢者・子ども・障害者をはじめ様々な対象の住居・施設・まちの環境を実際に調査することにより、問題を本質的に捉えることをめざします。

4年生においては、グループ研究での経験を踏まえて、各自が自主的・主体的に研究テーマを設定し、テーマに応じて調査を企画・実施することにより、専門演習論文をまとめます。

また、3、4年生の合同ゼミやゼミ合宿等を積極的に行い、学生相互の学びの場を設けます。

担当教員からのメッセージ



専門演習ゼミは自分から積極的に学ぶ姿勢がとても重要です。身の回りの身近な事柄に対し、問題意識を持ってその原因や解決策を探ることを、ゼミ生と一緒に議論していきたいと思っています。ゼミ生のみなさんの自由な意見が交錯する活発な学習・研究の場となることをめざします。